



株式会社浅沼組

2024年3月期第2四半期決算説明会

2023年11月17日

イベント概要

[企業名]	株式会社浅沼組		
[企業 ID]	1852		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 3 月期第 2 四半期決算説明会		
[決算期]	2023 年度 第 2 四半期		
[日程]	2023 年 11 月 17 日		
[ページ数]	21		
[時間]	13:30 – 14:02 (合計：32 分、登壇：29 分、質疑応答：3 分)		
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 2 階 第 2 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)		
[会場面積]	145 m ²		
[出席人数]	10 名		
[登壇者]	3 名		
	代表取締役社長執行役員	浅沼 誠	(以下、浅沼誠)
	代表取締役 専務執行役員	山腰 守夫	(以下、山腰)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



執行役員コーポレート・コミュニケーション部長

浅沼 真里香（以下、浅沼真里香）

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから、株式会社浅沼組様の決算説明会を開催いたします。初めに、会社からお迎えしている3名の皆様をご紹介します。まず、代表取締役社長執行役員の浅沼誠様です。

浅沼誠：浅沼です。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。

次に、代表取締役専務執行役員社長室長の山腰守夫様です。

山腰：山腰です。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。

次に、執行役員コーポレートコミュニケーション部長の浅沼真里香様です。

浅沼真里香：浅沼真里香です。よろしくお願いいたします。

司会：よろしくお願いいたします。

本日は、まず浅沼誠社長様から、そのあと、浅沼真里香部長様から、それぞれご説明いただき、お二方のご説明が終わりましたら、質疑応答の時間を設けていただいております。それでは、早速でございますが、浅沼社長様、よろしくお願いいたします。

浅沼誠：ただいまご紹介いただきました、社長の浅沼誠です。本日はご参加いただきありがとうございます。これより、浅沼組の2024年3月期第2四半期の決算説明をさせていただきます。初めに、私より簡単に決算概要をご説明申し上げます。

まず、建設業界の環境といたしましては、企業の旺盛な設備投資意欲により、倉庫、物流施設、工場等の新設需要が拡大し、民間建設投資が堅調に推移しておりますが、コロナ禍の収束に伴う需要の高まり、ロシアのウクライナ侵攻に伴うサプライチェーンの混乱等の長期化等による資材価格の高騰や、人員不足による人件費高騰などにより、依然として建設工事原価が上昇している状況です。

それらの影響により、2024年3月期第2四半期の連結業績は、受注、売上高については前年同期比で増加したものの、売上総利益以下の利益については減益となりました。しかしながら、計画対

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



比では、シンガポール子会社の好調な業績が連結に寄与し、売上、利益ともに上回ることができました。なお、通期における受注、売上、利益および配当につきましては、5月に開示した計画通りとなる見込みとなっております。

現在取り組んでおります、中期3ヵ年計画も、残すところ半年を切りました。引き続き、全社一丸となり、業績目標の達成および各施策の完遂を目指します。

それでは詳細につきましては、執行役員コーポレート・コミュニケーション部長、浅沼真里香よりご説明させていただきます。

目次



1. 業績（2024年3月期 第2四半期）	
(1) 実績・進捗（連結）	P. 3
(2) 受注の内訳	P. 4
2. 中期3ヵ年計画の進捗状況	
(1) 維持・修繕事業（リニューアル）	P. 5
(2) 生産労働人口の減少への対応	P. 8
(3) 非財務経営活動（ESG・SDGs等）	P. 9
3. Topics	P. 11

浅沼真里香：それでは、ここからはコーポレート・コミュニケーション部浅沼より、ご説明申し上げます。

本日、ご説明させていただきますのは、お手元資料の横長の資料の2ページ目をご覧くださいと思います。まず2024年3月期第2四半期の業績の内容についてご説明させていただきます。それから、中期3ヵ年計画、こちら今期が最終年度となっておりますが、こちらの進捗状況についてご説明申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ここで簡単に、中期3ヵ年計画の取り組みの概要について触れさせていただきます。私ども、中期3ヵ年計画では、外部環境変化に挑戦をテーマに掲げておまして、その外部環境変化を三つ特定し、対する打ち手を施策として据えております。

一つ目は、中長期的に減少していきだろうといわれております国内建設投資、それへの対応として維持・修繕事業、所謂リニューアル事業を注力してございます。そして二つ目の外部環境変化として、生産労働人口が減少をあげており、これに対してDX推進等の施策を掲げて対応している状況でございます。また三つ目は、ESG・SDGsを含めた非財務経営活動をより一層企業として対応していかなければならないかと存じますので、それに対して、さまざまな打ち手を実施しております。

これらの三つを柱に、中期3ヵ年計画を進めておりますが、その進捗状況について後ほどご説明申し上げます。

1. 業績（2024年3月期 第2四半期）

(1) 実績・進捗（連結）



- ① 2024/3期2Qは、好調な受注環境を背景に受注高は堅調。また工事が順調に進捗し売上高も前期比・計画比共にプラス。売上総利益以下については、資材高による利益率低下により前期比減益なるも、シンガポール子会社の好調な業績が寄与し計画は達成
- ② 2024/3期通期については、固定資産の譲渡による特別利益⁽¹⁾を計上予定であり、通期計画達成見込み

主要項目 (連結) (単位：百万円)	2022/3期			2023/3期			2024/3期				
	2Q 実績	通期 実績	2Q 進捗(%)	2Q 実績	通期 実績	2Q 進捗(%)	① 2Q 実績	前期比	計画比	② 通期 計画	2Q 進捗(%)
受注高	59,047	136,568	43.2	68,318	144,743	47.1	85,229	16,910	1,929	144,700	58.9
売上高	59,689	135,478	44.0	66,888	144,436	46.3	70,040	3,152	5,070	141,800	49.4
売上 総利益	5,720	13,444	42.5	6,760	15,139	44.6	6,276	△483	6	13,950	45.0
売上 総利益率	9.6%	9.9%	—	10.1%	10.5%	—	9.0%	△1.1P	△0.7P	9.8%	—
販管費	4,209	8,609	48.8	4,594	9,447	48.6	4,691	96	△48	9,850	47.6
営業利益	1,511	4,835	31.2	2,165	5,691	38.0	1,585	△580	55	4,100	38.7
四半期利益/ 当期純利益	956	3,748	25.5	2,135	4,200	50.8	1,101	△1,034	246	4,540	24.3
配当	—	363円 ⁽²⁾	—	—	191円	—	—	—	—	197.5円	—
配当性向	—	78.1%	—	—	73.3%	—	—	—	—	70.2%	—

(1) 2023年11月8日付「固定資産の譲渡および特別利益（固定資産売却益）の計上に関するお知らせ」の内容は通期計画に織り込み済

(2) 当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2022年3月期については、分割前の実際の配当金を記載しております。

それでは3ページ目をご覧ください。ここでは、まず2024年3月期第2四半期の連結での業績の内容についてご説明申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



この赤丸1の赤枠で囲っておりますのが第2四半期の実績、それからその右に、対前年同期比と計画比をお示ししております。また赤丸2では今期の通期計画と、第2四半期の通期計画に対する進捗率をパーセンテージでお示ししております。

まず、丸1の方をご覧ください。1行目をご覧くださいます通り、第2四半期の実績としましては、受注高852億2,900万円、前年同期比でプラスの169億1,000万円、そしてその一番右、計画比では、19億2,900万円プラスでございます。先ほど、社長からのお話でもございましたけれども、好調な受注環境を背景に、受注については堅調に推移している状況でございます。

また2行目、売上高につきまして、第2四半期実績については、700億4,000万円、対前年同期比で31億5,200万円のプラス、また、対計画比で50億7,000万円のプラスという内容になりました。こちらにつきましては、工事が順調に進捗したというところで、売上高についても前期比、計画比ともにプラスという内容でございます。

続きまして、利益でございますが、4行目の売上総利益率のところをご覧ください。第2四半期時点では、売上総利益率9.0%というところで、対前期比マイナス1.1ポイント、計画比でマイナス0.7%という状況です。これにつきましては、資材高による影響が依然としてあるという状況でして、利益率低下により前期比減益という状況になってございます。その影響を受けて、営業利益以下につきましても、15億8,500万円というところで、対前期比でマイナス5億8,000万円、そして当期純利益につきまして、11億100万円というところで、対前期比でマイナス10億3,400万円という状況でございます。

一方で、利益のところの一番右の列、計画比のところをご覧くださいますと、対計画比では過達の状況となっております。営業利益ベースでプラスの5,500万円、当期純利益のところではプラスの2億4,600万円となっておりますけれども、こちらにつきましては、私どもの連結子会社でシンガポールに2社リニューアル関連子会社を持っておりそこでの業績が大変好調だったことが連結に寄与して、利益額ベースで計画過達という内容となっております。

続きまして、こちらの丸2の通期計画に対する第2四半期の進捗率について触れさせていただきます。ここの第2四半期進捗率のところをご覧くださいますと、進捗としては問題のない水準で推移しておりますけれども、当期純利益の進捗率につきましては、やや低い水準かと存じます。

この内容につきましては、お手元資料に2枚目の資料として、11月8日に開示しました、資産譲渡に伴う特別利益の計上というものを下期に予定しておりますので、これらを織り込みますと、通期計画については十分達成する見込みという内容になってございます。その結果、配当につきまし

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ては、197.5 円と計画通りを予定しております。また、配当性向につきましても 70%を超える水準を見込んでおります。

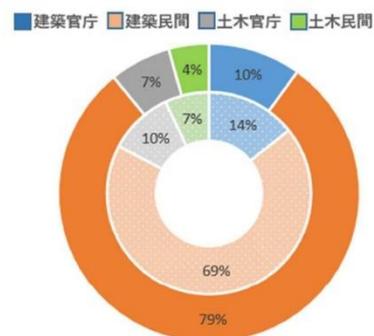
1. 業績（2024年3月期 第2四半期）

(2) 受注の内訳



- ① 国内（当社単体）の受注は堅調に積み上がっており、特に工場・倉庫等の建築の民間が主導
- ② シンガポール子会社にて大型工事受注もあり、海外子会社も前年同期比増加

受注実績 (単位：百万円)		2023/3期		2024/3期	
		2Q実績	2Q実績	2Q実績	前年同期比
国内 (当社単体)	建築	52,299	68,388	16,089	
	官庁	9,040	7,638	△1,402	
	民間	43,258	60,749	17,491	
	土木	10,917	8,352	△2,565	
	官庁	6,480	5,042	△1,438	
	民間	4,437	3,309	△1,127	
	建築・土木計	63,217	76,740	13,523	
	官庁	15,521	12,680	△2,840	
民間	47,695	64,059	16,364		
海外子会社		5,101	8,488	3,386	
連結		68,318	85,229	16,910	



円グラフ：個別受注状況
外側：2024/3期 2Q
内側：2023/3期 2Q

4

続きまして、4 ページ目をご覧ください。先ほど、連結業績のところ、受注が堅調に推移していると触れさせていただきましたが、その内容について少し簡単にご説明させていただきます。

この一番下の連結のところ、先ほどお示しの通り、対前年比増加という内容になっておりますが、その主な内容としましては、赤丸1のところに記載の通り、建築がけん引している状況です。中でも、上から3行目の一番右をご覧ください。民間につきましては、前年同期比プラス174億9,100万円となり、主に工場とか倉庫を多く受注でき、このような結果になっております。

また、もう一つ、受注増に欠かせない要因として、先ほども少し触れましたシンガポール子会社での受注も堅調に推移し、連結にしっかり寄与できたという内容でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(1) 維持・修繕事業（リニューアル） ① 2024年3月期 第2四半期実績



- ASEANリニューアル関連子会社業績が堅調に推移し、目標である「中期3ヵ年計画最終年度（当期）における建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35%以上」は達成見込み
- 国内においても大口受注あり2Q時点で通期計画ほぼ達成。今後PLに寄与する見込み

建築リニューアル（国内外合計）営業利益（2Q）実績 （単位：百万円）

	2022/3期	2023/3期	2024/3期			
	2Q実績	2Q実績	2Q実績	前期比	通期計画	進捗率
営業利益	762	480	1,106	626	1,443	76.6%
営業利益シェア	50.4%	22.2%	69.8%	—	35.2%	—
内、国内 建築リニューアル						
受注高	8,817	10,789	19,600	8,811	20,000	98.0%
完成工事高	8,313	6,670	8,219	1,549	18,300	44.9%
営業利益	768	230	345	115	1,120	30.8%
営業利益シェア	50.8%	10.6%	21.8%	—	27.3%	—
内、ASEANリニューアル⁽²⁾						
受注高	691	5,101	8,488	3,386	9,700	87.5%
完成工事高	842	4,182	4,647	465	10,000	46.4%
営業利益 ⁽¹⁾	△6	250	761	510	323	235.6%
営業利益シェア	△0.4%	11.6%	48.0%	—	7.9%	—

(1) ASEAN子会社ののれん償却費等を含む

(2) 2023/3期のASEANリニューアル業績は2022年1月にEVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD.を子会社化したことにより増加

5

続きまして、5 ページ目をご覧ください。ここからは、私どもの中期3ヵ年計画、先ほども申し上げました通り、当期が最終年度になりますけれども、その取り組み状況についてご説明申し上げます。

三つの注力領域があると申し上げたかと思いますが、その一つ目であります、リニューアル事業につきましては、当期の年度末において連結営業利益のうちの35%以上をリニューアル事業の営業利益となる事業ポートフォリオのイメージをもって中計を走らしてきているわけですが、そちらについては予定通り、今中期3ヵ年計画の最終年度である2024年3月期末においては35%を達成する見込みとなっております。

具体的な内容としましては、今期の第2四半期時点で、国内建築リニューアルとASEANリニューアル、これらを足した全体のリニューアルの営業利益が11億600万円と、前期比プラス6億2,600万円と増加している状況でございますので、通期においても十分達成することができるだろうと見立てております。営業利益のシェアのところはやや膨らんでしまっておりますけれども、こちらについては、年度ベースで見たときに、分母である連結営業利益が上がってきますので、期末時点では35.2%を見込んでいる状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



この増加要因ですけれども、2段目の国内リニューアルの受注高が増加しておりますが、リニューアルの大口をしっかりと受注に取り込めたところと、あとは先ほどから申し上げております、シンガポール子会社における受注もしっかり計上しているという内容で前期比増加しているという内容になっております。

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(1) 維持・修繕事業（リニューアル）②『ReQuality』ブランドの推進



- 独自技術を用いたリニューアルによる付加価値をアピールした営業を推進中
- リニューアル事業のモデルケースである当社名古屋支店の改修が新たにシンガポールでも受賞

独自技術を用いたリニューアル提案

高度なRC調査診断技術

- 簡易な調査で当社独自の評価基準にて診断、適切な改修方法を提案し、コスト減にも寄与



西多賀幼稚園様(宮城県仙台市)のRC調査診断作業の様子

調査診断技術の詳細はこちら



<https://www.requality.jp/service/advance/133/>

還土ブロック

- 建設残土を用いたブロック「還土ブロック」を利用した施工



JR西日本プロパティーズ株式会社様（兵庫県神戸市）事務所ビル受付に設置の様子



還土ブロックの詳細はこちら



<https://www.requality.jp/service/advance/140/>

当社名古屋支店改修プロジェクトがシンガポールのグッドデザイン賞を受賞

- 名古屋支店改修PJがシンガポールのグッドデザイン賞にあたる「SGマーク」のサステナブルデザイン部門において受賞



名古屋支店改修PJの詳細はこちら



<https://www.requality.jp/works/145/>

6

では、実際にリニューアルを獲得するに当たって、どのような取り組みをしているかというところでございますが、6ページ目をご覧ください。

私どもの建築リニューアルのことを、この一番上のタイトルに記載しています通り、

「ReQuality」という名前を付けてブランディングをしておりますが、実際に、「ReQuality」を推進していくにあたって欠かせないファクターでございます、当社の技術について少し触れさせていただきます。リニューアル事業については、どこの会社でも取り組んでおられますけれども、その中でわれわれが付加価値を提供する一環として独自技術を用いたリニューアル提案というものを実施してございます。その事例を具体的に二つここで取り上げさせていただきます。

まず一つ目、左側の高度なRC調査診断技術と記載してございますが、これは鉄筋コンクリートの調査を、弊社の独自の基準を用いて調査をし、その内容をベースに最適なりリニューアルを提案する

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



という内容になっております。最適な提案を行うことにより、結果としてお客様サイドもコスト減に寄与する内容となっております。

もう一つの技術としましては、還土（カンツチ）ブロックというものがございます。写真でご覧いただいております通り、ブロックと言えば通常はコンクリート等をイメージされるかと思いますが、私どもがご提案しているのは、土を用いたブロックでして、湿気を吸う、臭いを吸う、空気を循環するといった土の特性を生かしたブロックを、弊社の技術研究所で作って提供することができます。

具体的な事例として、JR 西日本プロパティーズ株式会社様が進めていらっしゃる建設現場において発生した残土を用い還土ブロックを作成し、お客様のオフィスに設置いただきました。これらをはじめとし様々な技術を用いて弊社として付加価値のあるリニューアル提案を行っているところでございます。

もう一つ、私どものブランド「ReQuality」を語る上で欠かせないのが、中段より下のところがございます、弊社の名古屋支店改修プロジェクトでございます。この「ReQuality」を当初推進するために、弊社のさまざまな技術やノウハウを全て詰め込んだ、ある種フラッグシップ的なものを作ろうじゃないかという話になりまして、弊社がもともと保有しておりました、築 30 年程の自社ビルを全面改修いたしました。

こちらにつきましては、国内外のさまざまな賞をいただいております、その1つとして、皆様もお耳にしたことがあると思いますが、グッドデザインベスト 100 に選ばれておりましたが、さらにこの度シンガポールのグッドデザイン賞にあたる SG マークというものも獲得いたしました。これらの受賞は、私どもがやってきたことを評価してくださっているという面に加えて、社員にとってもモチベーションにもなっており、これを足がかりに引き続き「ReQuality」を推進しているところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(1) 維持・修繕事業（リニューアル） ③ASEAN地域での事業強化



- 2社のシンガポール子会社の業績が好調であり、通期計画における進捗が堅調推移
- タイでは炭素繊維シートによる橋等の補強事業を引き続き推進（JICA支援事業に認定）

シンガポール

買収子会社名	SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.					EVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD.				
買収時期	2018年10月					2022年1月				
事業内容	リニューアル工事、建物塗装					建物メンテナンス、電気・設備工事、リニューアル				
業績	2023/3期		2024/3期			2023/3期		2024/3期		
	2Q実績	2Q実績	前期比	通期計画	進捗率(%)	2Q実績	2Q実績	前期比	通期計画	進捗率(%)
受注高	2,074	6,538	4,464	5,600	116.7	3,027	1,949	△1,077	4,100	47.5
売上高	1,370	2,492	1,121	4,700	53.0	3,487	2,972	△515	5,300	56.1
営業利益	11	149	138	110	135.5	411	799	388	560	142.8
のれん等	17	18	—	—	—	155	169	—	—	—

タイ

子会社名： Thai Asanuma Construction Co.,Ltd.

設立時期： 2021年7月

事業内容： 高速道路・橋梁のメンテナンス

- ・ 東レ株式会社、東レインターナショナル株式会社と協働し、炭素繊維シートによる橋・高架橋の補強事業を推進中
- ・ 2021年にJICA SDGsビジネス支援事業に採択され、受注獲得へ営業を強化中
- ・ パイロット事業としてタイ現地に高架橋の断面補修及び炭素繊維シート補強工事を実施



第1回パイロット事業を実施

7

続きまして、7ページ目をご覧ください。ここでは、リニューアルのもう一つ欠かせない要素でございますが、先ほどからたびたび出ていますASEANのリニューアルについてご説明申し上げます。

私どもの連結子会社のシンガポールには2社リニューアル関連事業がございます。一つは、SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.、こちらにつきましては、2018年10月に子会社化した会社で、リニューアル工事や建物の塗装等を実施している会社でございます。もう一つはEVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD.というところで、こちらは去年の1月に子会社化した会社でございます。リニューアル工事に加えて、メンテナンス、電気設備工事等を行っている会社となります。

ここに数字を記載させていただいております通り、業績については堅調に推移しております、冒頭連結の業績でのご説明の際にも触れさせていただきましたが、シンガポール子会社の業績が連結の連結にも寄与出来てきているという内容になっております。

続きまして、下段にタイと記載をしておりますが、こちらにつきましては、東レ株式会社様、東レインターナショナル株式会社様とともに協働させていただき、炭素繊維シートを橋の脚の部分や高

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



架橋のところに貼り付けて橋を補強するという事業を立ち上げいたしました。こちらにつきましては、現在少しずつ受注を積み上げているところです。

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(2) 生産労働人口の減少への対応 DX推進



■ バーチャル現場体験型の施工管理教育システム「現場トレーナー」を他社と共同開発。若手社員の施工管理に関する教育をDXにて拡充

- バーチャルな現場内で現場社員アバターを操作し、問題点や注意すべき点等を発見、クイズ形式で学習
- 各OSやタブレットに対応した製品をリリースし、若手社員の教育をDXにて拡充

バーチャルな現場内を歩きながら学習する「アドベンチャーパート」の経験を積むと、レベルに合わせた設問のみで学習する「ドリルパート」を行うことができる

アドベンチャーパート

S造 (Windows版)



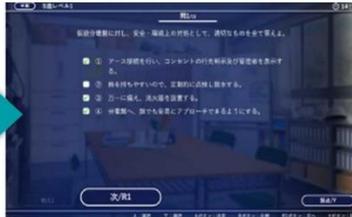
RC造 (iPad版)



ドリルパート



現場内でドリル開始



設問・解答画面



採点・解説画面

8

続きまして、8 ページ目をご覧ください。ここからは、中期3ヵ年計画の二つ目の注力領域でございます、生産労働人口の減少への対応として、DX 推進の取組みをピックアップしてご説明申し上げます。

ご高承の通り、生産労働人口の減少により建設現場における人員も非常にタイトな状況になってきております。従来、実施していたような、いわゆる先輩社員が後輩に教育する、上司が部下にいろいろ教えるといった時間が取りづらい状況になっているところでございます。

そこで、私どもは「現場トレーナー」というシステムを他社と共同開発いたしました。写真から大体推測していただけると存じますが、バーチャルな建設現場内で現場社員のアバターが歩き回れるようになっており、例えば左の画像のように、現場内を歩いていると黄色い三角がでてきて、どういう注意点があるでしょうかとか、ここにどういう問題点があるでしょうかといったクイズが出てきます。回答の選択肢を選ぶと説明が表示されるといったものになっていて、現場の随所で発生する問題点を解決しながら学習を進めていきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



私も、実際に体験デモ版というものを使ってみたのですが、資料の画像はちょっと見づらいたが、非常に画面がきれいで、まるで本当に現場にいるような感覚になり、楽しみながら、現場に入ったことがない人も現場内を想像しながら学ぶことができるということで、非常に好評です。ご説明したのはアドベンチャーパートというもので、いろいろな建物を歩き回りながら学習するものですが、下の画像はドリルパートというもので、歩き回ったりすることはなく、クイズのみのパートとなっており、個人の進捗具合やレベル別にクイズが出てきて、それに回答していくものとなっております。例えば同期社員同士で進捗を競うこともでき、どんどん学ぶ楽しみ、意欲が湧いてくると思っております。

現在はS造とRC造の二つの建物バージョンになっておりますが、今後、これをいろいろな種類の工事に増やしていき、建築だけではなく土木工事へも展開できるよう今検討しているところでございます。

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(3) 非財務経営活動(ESG・SDGs等) 環境への取り組み



- 2022年度のスコープ1・2におけるCO₂削減実績を鑑み、本年8月に目標を引き上げ(表1)
- 今年度より新たに追加したスコープ3カテゴリ11のCO₂削減目標達成に向け、引き続き推進中

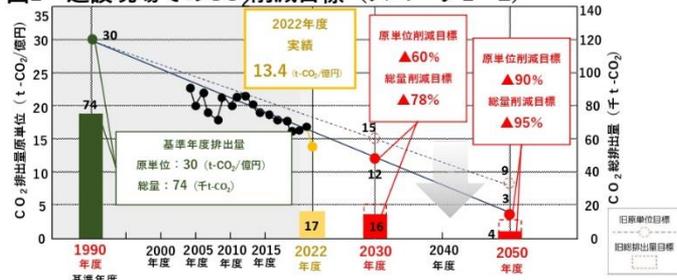
表1 CO₂削減目標一覧

対象	単位	基準年度		実績	目標年度	
		年度	排出量	2022年度	2030年度	2050年度
スコープ1/2 (建設工事のみ対象)	原単位 t-CO ₂ /億円 ⁽¹⁾	1990	30	13.4 ▲55%	12 ▲60%	3 ▲90%
	総量 t-CO ₂	1990	74,193	17,000 ▲77%	16,322 ▲78%	3,710 ▲95%
スコープ3 カテゴリ11 (自社設計+他社設計)	総量 t-CO ₂	2021	693,428	647,430 ▲6%	589,414 ▲15%	450,728 ▲35%

2022年度の実績を鑑み、スコープ1・2の2030年度・2050年度の目標を8月に引き上げ

(1) 完工高1億円当たりの排出量

図1 建設現場でのCO₂削減目標(スコープ1・2)



《参考》CO₂のカテゴリ
 スコープ1：事業活動で発生するCO₂
 スコープ2：電気ガスの使用による間接排出のCO₂
 スコープ3：お客様にお引渡しした建築物のカテゴリ11 使用時に排出されるCO₂

続きまして、9ページ目をご覧ください。ここでは、私どもの注力分野の三つ目でございます、ESG・SDGsを含めた非財務経営活動の状況についてご説明申し上げます。

ここでは一つ目として環境への取り組みについてピックアップさせていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



この表1に記載の通り、CO2の削減目標として、スコープ1である事業活動で出てきたCO2と、スコープ2の電気・ガスの使用による排出されたCO2、これらの2030年度・2050年度における目標を設定しておりましたが、2022年度の実績を踏まえ、2023年8月に目標の引き上げをいたしました。これを機に、より一層のCO2削減の取り組みを実施してまいろうと思っております。

またもう一つ、今期より新たに目標として掲げました、スコープ3カテゴリー11、いわゆるお客様に建物をお引き渡したあとに出てくるCO2、これについても削減目標を設定いたしましたので、この削減目標にも向けて、より一層のCO2削減の取り組みを実施しているというところでございます。

2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

(3) 非財務経営活動(ESG・SDGs等) 社会貢献活動



- 社会貢献活動の一環として、障がい者スポーツに援助
- 2018年から日本身体障害者野球連盟へ協賛。9月に5年振りに開催された世界大会にも協賛
- 2018年から協賛を開始した日本ブラインドテニス連盟へも継続的に協賛を実施

当社の社会貢献活動方針

私たちは、社会の一員として社会のあるべきかたちの実現のため、社員一人一人が社会的責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を推進していきます。



第5回世界身体障害者野球大会
WORLD DREAM BASEBALL 2023

日本ブラインドテニス連盟の加盟団体である
近畿ブラインドテニス協会主催
第6回まいどおきに！フレンドリーカップ！

10

続きまして、非財務経営活動の取り組みの二つ目でございます、社会貢献活動についても簡単に触れさせていただきます。

弊社の社会貢献活動方針として、「私たちは社会の一員として社会のあるべきかたちの実現のため、社員一人一人が社会的責任を自覚し、積極的に社会貢献活動を推進していく」という方針を掲げております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



その方針を基に、社会貢献活動の一環として、障害者スポーツに協賛、援助を実施しております。そのうちのひとつとして、2018年から毎年協賛している日本身体障害者野球連盟は、本年9月に、コロナ感染症拡大の影響もありまして5年ぶりに開催された世界大会が開催されました。こちらにつきましては協賛だけでなく開会式には社長も出席をし、閉会式には、大変光栄なことに、わたくし浅沼が、選手の方々に、メダルをかけさせていただくことが出来ました。

もう一つは、右側の四つの写真でお示ししておりますけれども、2018年以降、日本ブラインドテニス連盟様にも協賛をしております。こちらにつきましても、継続的な協賛だけではなく、ボランティア活動として、試合のスタッフとして選手の皆さんを補助するような、そういったような活動も、当部、コーポレート・コミュニケーション部にて実施させていただきました。

4. Topics



現場トレーナー製作委員会

現場トレーナー製作委員会が、6月19日（土）に、本社工場にて、第1回定例会を開催しました。この日は、委員会のメンバーが一堂に集まり、今後の活動計画や、現場での役割分担について話し合いました。また、現場での安全確保や、作業効率の向上についても、具体的な対策を協議しました。委員会のメンバーは、現場での経験豊富な技術者や、安全管理に詳しい担当者など、多岐にわたります。今後の活動を通じて、現場での課題を解決し、安全で効率的な作業を実現していくことが、委員会の大きな使命です。

バーチャル空間でノウハウ取得

バーチャル空間で、現場での作業ノウハウを学ぶことができます。バーチャル空間では、実際の現場を再現し、作業手順や安全確認などを、繰り返し練習することができます。また、バーチャル空間では、危険な作業や、高圧電圧などの作業も、安全に学ぶことができます。バーチャル空間での学習は、現場での作業効率を向上させ、安全確保にも大きく貢献します。また、バーチャル空間では、作業手順や安全確認などを、繰り返し練習することができます。また、バーチャル空間では、危険な作業や、高圧電圧などの作業も、安全に学ぶことができます。バーチャル空間での学習は、現場での作業効率を向上させ、安全確保にも大きく貢献します。

2023年5月31日 日刊建設通信新聞



全3棟のうち当社が2棟施工

大和ハウス DPL新横浜Ⅲが完成

3.5万㎡、設計・施工浅沼組

大和ハウス工業が「DPL新横浜プロジェクト」として2020年7月から順次プロジェクト全体では、I、II、III棟の順に整備してきた。III棟は延べ約23・3万平方メートルのマルチテナント型物件となる。羽田空港（東京流施設のうち、最後の1棟 都大田区）や横浜港にも近くなる「DPL新横浜Ⅲ」は、輸出入拠点としての役割を担う。I、II、III棟（報道発表資料より）

全棟竣工したDPL新横浜プロジェクト。右からI、II、III棟（報道発表資料より）

II、III各棟にも今後搭載する予定。IとIIは、多様な労働者の確保のため、オールジェンダーの確保のため、折とう至急対応したほか、テナント企業従業員が期待される。

IIIの所在地は川向町2001の14ほか、建物は柱RC梁S一部S造6階建て延べ3万5470平方メートルの規模。設計・施工は浅沼組が担当した。

I（延べ9万9644平方メートル）は、2023年3月に同社の設計・施工で竣工した。II（延べ9万8589平方メートル）は、2022年11月に浅沼組の設計・施工で竣工した。3棟ともBCP（事業継続計画）対応として、免震・耐震構造を採用し、非常用蓄電池も完備。Iには太陽光発電システムを搭載済みで、II、III各棟にも今後搭載する予定。

IとIIは、多様な労働者の確保のため、折とう至急対応したほか、テナント企業従業員が期待される。

3棟の総敷地面積は9万8000平方メートル。首都高速湾岸線横浜港北出入口から約100メートル、第三京浜道路北ICから約300メートルに立地し、都心部だけでなく、首都圏や東海エリアへのアクセスにも対応可能。羽田空港や国際コンテナ戦略港湾の横浜港に車で約分以内のアクセスでき、輸出入の拠点にもなる。

2023年10月6日 日刊建設通信新聞
神奈川県横浜港北エリアにて、物流倉庫を建設し、社会のニーズに応える

最後に、トピックスとしまして、直近で、私どもの取り組みを記事に取り上げていただいた内容をお示しさせていただきます。

一つが日刊建設通信新聞様に取り上げていただいた記事でして、先ほどご説明申し上げました、「現場トレーナー」について新聞記事に取り上げていただきました。もう一つが、こちらも日刊建設通信新聞様に取り上げていただいた内容でございますけれども、先ほど受注のご説明の中で、倉

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



庫や物流施設等の受注を獲得したという話を触れさせていただきましたが、そのうちのひとつとして、大和ハウス様の物流施設について記事として取り上げていただきました。写真には3棟がありますが、そのうち2棟が弊社の施工物件となっております。

私からのご説明は以上でございます。本日は浅沼組の取り組みの一部を今回ご紹介させていただきましたが、最終ページにあるCSRレポートにも弊社の様々な取り組みを載せておりますので、よろしければご覧いただければと思います。私からは以上でございます。もしご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



質疑応答

司会 [M]：ご説明どうもありがとうございました。それでは質疑応答に入ります。なお、この説明会は質疑応答部分も含め全文を書き起こして公開の予定です。では、ご質問いかがでございましょうか。はい、ありがとうございます。今、マイクを持ってまいります。

質問者 [Q]：ご説明ありがとうございます。5 ページのリニューアルのページで、国内の建築受注のところが前期 108 億円、今期 196 億円と倍増していて、かつ、進捗率がすでに 98%というところに来ているのですけれども、これまだまだ今後の伸びが期待されるところなのかなと思っているのですが。今期のこのあとの伸びしろ、それから、また来期以降、来期以降はまた新たな中計で数値など出てくるのかなと思いますけれども。数値は別にして、伸びがどのぐらいかなというイメージだけでも何か共有させていただければなと思っています。もし伸びに関して何かボトルネックなどがあるのであれば、それについても触れていただけると幸いです。以上です。よろしくお願いいたします。

山腰 [A]：リニューアルの国内の受注については、そこに、通期計画で 200 億円となっておりますので、それは必ず達成できるということになります。

現時点では連結営業利益の 35%以上を、国内外のリニューアル事業による営業利益で占めるというのを目線にしておりますが、先行きについては 40%、或いはそれを超えるといったかたちに、わが社としてはもっていきたいと現状は考えております。

質問者 [M]：ありがとうございました。

司会 [M]：ありがとうございました。他にご質問いかがでございましょうか。

それでは、ご質問もないようですので、これをもちまして、株式会社浅沼組様の決算説明会を終了させていただきます。どうも、浅沼社長様、そして山腰専務様、浅沼真里香部長様、本日はありがとうございました。

浅沼真里香 [M]：ありがとうございました。

司会 [M]：ご参加の皆様、どうもありがとうございました。

[了]

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

